

1 事業総括

年間入所目標を80世帯としたが、実績は74世帯で目標の92.5%という結果となった。年度途中から外壁塗装・屋上防水工事が始まり、一部入所制限したことが原因と考えられる。工事期間中は騒音、臭い等で入所者の生活に不便をかけることが多かったが、その都度具体的な説明を行い入所者の協力を得ることができたため、大きなトラブルは起こらなかった。当初の予定より早く、無事に工事期間を終えることができた。

世帯種別では、女性単身77%、母子世帯9.4%、夫婦世帯9.4%で、女性単身世帯の割合が高い結果となった。世帯属性は、高齢者34.9%、ひとり親21.3%、外国人19.1%、精神障害10.9%で、特に外国人世帯の増加が目立った。言語や文化の違いにより意思疎通が難しい場合があり、どのように相互理解を深めていくかが今後の課題である。

夫や親族からの避難を要因として施設を利用した入所者22人の内、5人が夫の元へ戻る結果となった。暴力からの避難を求めて入所してきた利用者がどのような経緯で元の居所へ戻ることになったのか、DV支援の専門家を招きケース検討会を実施した。当事者だけでなく第三者の視点からのケースの振り返りは、支援の質を高めるため今後も続けていく。

地域との関係では、併設施設と合同で地元商店会の「ちびっこまつり」や「淀橋市場まつり」「地域防災訓練」に参加。利用者、職員とも地域住民の一員として毎年参加を続けており、地元の方々との信頼関係を深めるよう努めている。地域貢献を目的とし、近隣在住の子どもを対象とした学習支援をNPO法人協力の元に企画。調整不足により実現できなかったが、淀橋荘ができる地域貢献は何かを町会の方々を考える機会となった。

〔利用実績〕

(単位：世帯)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	74	6	4	9	8	6	6	5	7	7	2	8	6
退所世帯数	81	7	4	12	6	8	7	6	5	7	6	7	6
月末在籍世帯数	平均 21.58	25	25	22	24	22	21	20	22	22	18	19	19
27年度	平均 25.16	26	27	24	25	27	25	26	26	23	22	24	27

〔退所理由〕

(単位：世帯)

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
28年度	2	0	50	1	18	2	2	0	6	0	0	0	81
27年度	0	0	48	1	27	2	0	0	3	1	0	0	82

2 主要目標に対する成果

(1) 安心・安全の施設運営

安否確認は、毎日入所者がカードを事務所窓口に提出する方法で実施。入所者と職員がなるべく顔を合わせる状況を作り、入所者の特性に配慮した声掛けを行い、相談しやすい関係性を作った。

(2) 特人厚バックアップセンターとの連携を密にした緊急一時保護機能の充実

入所申込みの時点での情報取得を詳細に行い、事前に必要な支援策を想定し、入所後は速やかに支援を実施。福祉事務所へは生活の様子や目標の進捗状況を報告し、目標達成に向けた情報共有を密に行った。

(3) 利用者支援内容の充実

支援確認書を作成し、退所に向けてやるべきことの優先順位を確認。期限内の目標達成ができるよう、各種専門相談など利用できる社会資源を活用した支援を行った。ケース検討会では外部から専門家を招き、DV被害者への支援を取り上げた。

(4) 年間入所目標（対定員利用率）

平成28年度目標：80世帯（296%）、平成28年度実績：74世帯（274%）

3 運営管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦や幼児がいる世帯には、助産師による育児相談を必ず受けるよう方向付け、子育ての不安を1人で抱え込まず相談できる機会とした。(延べ15世帯相談) ・メンタルケア相談は年10回の予定だったが、利用者の要望に応え、年12回実施した。 ・毎月実施の手芸会では、社会福祉協議会から紹介されたボランティア講師から、裁縫と折り紙を教えてもらった。毎回違う作品にチャレンジし、予定の時間を超えるほど熱中することもあった。しかし参加者は昨年度に比べ減少傾向にある。(延べ44世帯参加) ・グループワークは、「熱中症と食中毒の対策」「リネンスプレー作り」「防災館見学」「スノードーム作り」を行った。(延べ20世帯参加) ・調理実習では、「七夕そうめん」「お餅活用術」「産後期の栄養」を実施。調理を通じて利用者間の交流が深まった。(延べ12世帯参加) ・季節行事は、「七夕会」「クリスマス会」「ひなまつり」を実施。延べ28世帯参加。 ・利用者懇談会は、外壁工事の説明のため予定より回数を増やし年7回実施した。利用者からの意見では、生活音の心配が出ることが多かった。(延べ65世帯参加) ・宿提会議・ケース検討を月1回実施。利用者の現況を詳細に報告し情報共有した。 ・併設施設と合同で自衛消防訓練を年4回実施。その内1回は水害発生を想定し行った。 	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・服薬に不安のある利用者の薬を事務所で預かり、飲み過ぎ飲み忘れがないよう薬ポケットを利用した適切な服薬を支援した。 ・関係者以外の施設内の出入りを防ぐため、2カ所使用できていた出入口を1カ所に限定した。災害避難時には各所出入口は使用できるが、通常は事務所前を通る出入口のみ使用するようにした。そのため各戸ポスト、意見箱をエレベーター横へ移設した。 ・防虫点検(年3回)、消防設備点検・受水槽清掃・雑排水管清掃(年1回)を実施した。 	
5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事務所向けの施設説明会を併設施設と合同で2回実施。 ・地元行事の「ちびっこまつり」「淀橋市場まつり」「合同防災訓練」に参加。 ・職員学習会は、「DV被害者支援と施設の役割」「支援者のケアと支え合い」を実施。小規模の学習会だったため、参加者が意見を出しやすい雰囲気となった。(延べ16人参加) ・併設施設やその他事業団施設、関係機関からの実習生、見学者を受け入れ、宿所提供施設の現状と役割の理解を図った。 ・淀橋市場職員への駐輪場の貸し出しを実施。 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関 ：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構	実施期間 ：H28. 5. 25～H28. 7. 16
全体の講評 ： 特に良いと思う点 ① 他施設で支援困難であった世帯を受け入れ、各関係機関・団体と連携し、きめ細やかな支援を行っている。 ② 「地域と共に歩む施設」を目標に掲げ、地域との連携に努めている。 ③ 併設施設の人的環境などを活用し、チームアプローチを行い、支援の質向上につなげている。	施設コメント ： 行事を通じ、通常の支援場面だけでは見えてこない利用者の強みを把握し支援に活かしていることが評価された。今後もきめ細やかな支援を行い質の向上につなげたい。 利用者アンケートから、外部の苦情相談窓口の周知が十分でないことが判明した。生活のしおりや掲示物を通じ、わかりやすく説明、表示していきたい。 職員のスキル向上に向け、研修や事例検討会への参加を積極的に促していく。
さらなる改善が望まれる点 ① 利用者の安心・安全性に配慮した物的環境へのより一層の工夫や、その取り組みを期待したい。 ② 外部の苦情相談窓口の周知・活用へのより一層の取り組みが望まれる。 ③ 職員のスキル向上に向けたより一層の取り組みを期待する。	

